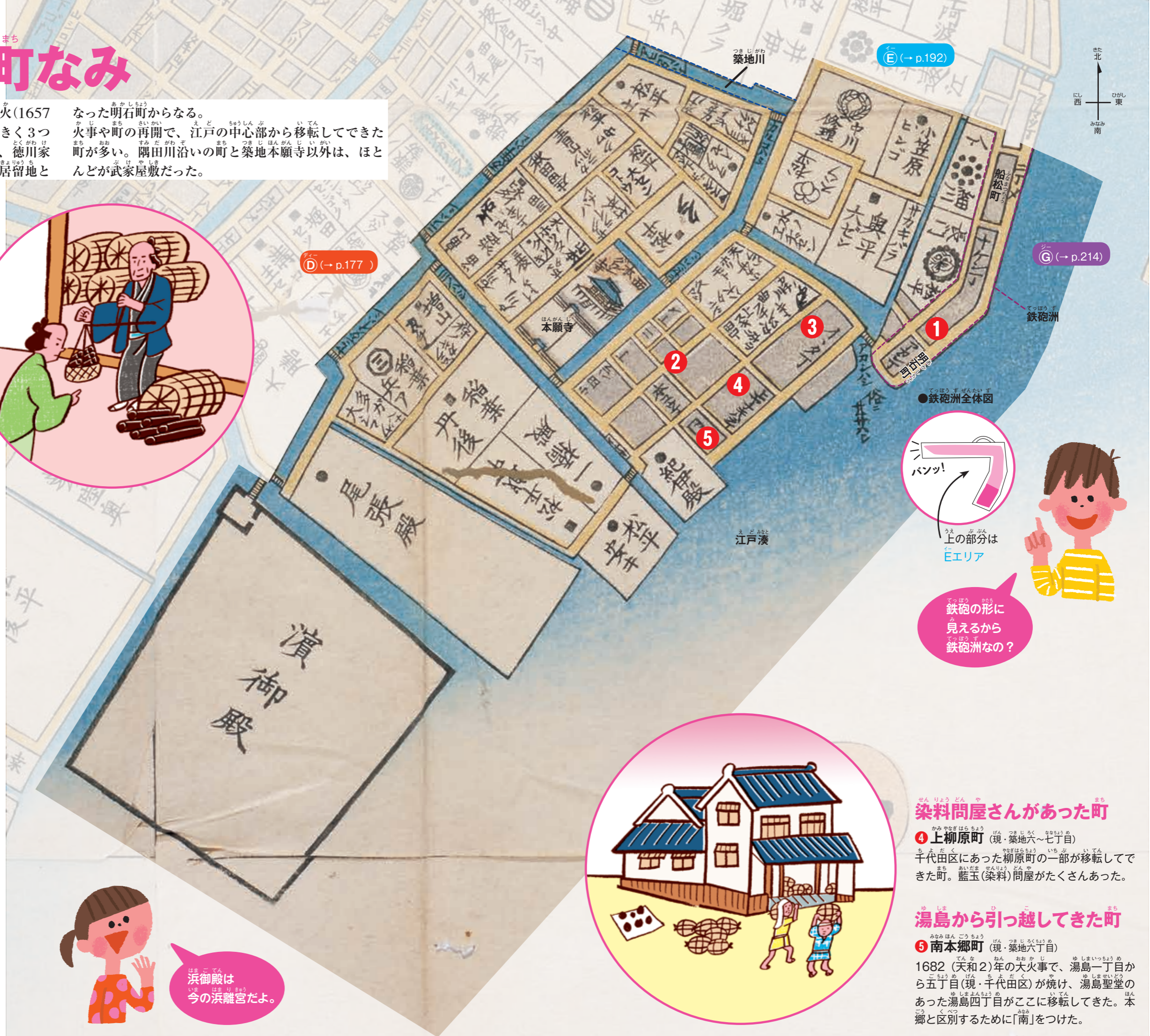


江戸時代の町なみ

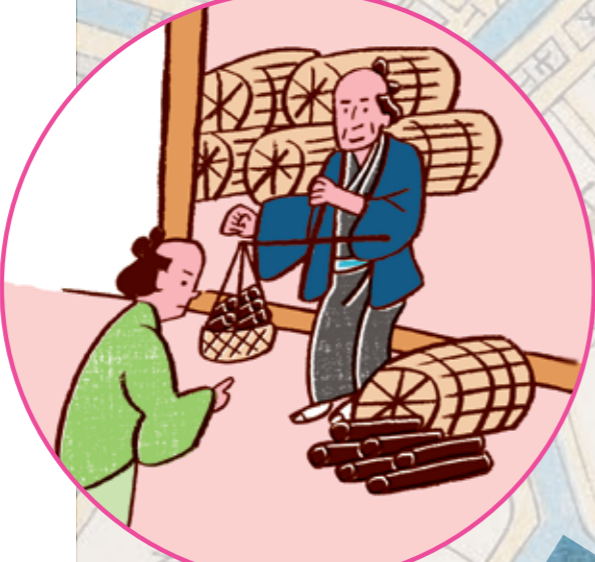
江戸のたくさんの町が焼けてしまった明暦の大火(1657年)のあとに埋め立てられてできた地域で、大きく3つに分けられる。築地川に囲まれた築地地区と、徳川家もっていた浜離宮庭園、明治以降に外国人居留地と

なった明石町からなる。火事や町の再開で、江戸の中心部から移転してできた町が多い。隅田川沿いの町と築地本願寺以外は、ほとんどが武家屋敷だった。



材木や炭の間屋街

① 十軒町 (現・明石町)
本湊町と船松町の南側、明石町の北側に位置し、鉄砲洲とよばれた沿岸部の町の1つ。名前の由来は不明だが、材木問屋、燃料にかうまきや炭の間屋が多く集まっていた。



日本橋から移ってきた町

② 南小田原町 (現・築地六〜七丁目)
慶長年間(1596~1615)のころ、日本橋の北側にある本小田原町(→p.151)には、江戸城の建材用の石置き場があった。のちにそこに魚河岸ができたため、本小田原町の一部の住人が、ここに引っ越してきたことから南小田原町となった。稲荷前、肴店、横河原ともよばれた。



家康を案内した飯田さんの町

③ 南飯田町 (現・築地七丁目)
1590(天正18)年、徳川家康が江戸に入城したときに飯田喜兵衛という農民が道案内をした。飯田喜兵衛は、そのほうびに家康から土地を与えられ、飯田村ができた(現在の飯田橋、九段の辺り)。その後、九段坂の工事で飯田村の一部がけずられることになったので、かわりにこの地を与えられた。飯田村と区別するため南飯田町とした。



浜御殿は今の浜離宮だよ。

D (→ p.177)

E (→ p.192)

G (→ p.214)



上の部分はEエリア



鉄砲の形に見えるから鉄砲洲なの？

染料問屋さんがあった町

④ 上柳原町 (現・築地六〜七丁目)
千代田区にあった柳原町の一部が移転してきた町。藍玉(染料)問屋がたくさんあった。



湯島から引っ越してきた町

⑤ 南本郷町 (現・築地六丁目)
1682(天和2)年の大火事で、湯島一丁目から五丁目(現・千代田区)が焼け、湯島聖堂のあった湯島四丁目がここに移転してきた。本郷と区別するために「南」をつけた。